St. Luke's International University Repository

Evaluation of the employment support system

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小松, 浩子, 川越, 博美, 有森, 直子, 佐居, 由美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/384

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

報　告

本学における就職支援体制とその評価

小松　浩子[1)]　川越　博美[2)]　有森　直子[3)]　佐居　由美[4)]

要　旨

学生部では，学生部の重要な役割・機能の一つとして就職支援体制の設備とその充実にむけての活動を行ってきた。今回，これまで学生部が取り組んできた就職支援体制の現状を分析するとともに，支援体制に関する学生の活用状況と評価を行い今後の就職支援体制充実のための課題を明らかにすることを目的にアンケート調査を行った。

その結果以下のことが明らかとなった。

1．学生部のガイダンス・個別相談は，おおむね学生の就職活動に役立っているという評価が得られた。
2．支援設備の活用について，学生の多くは本学独自の資料と一般的な情報誌の両方をバランスよく活用していた。
3．進路を決める上で決め手となったこととして，待遇や所在地などの労働条件のほか，看護の理念や現任教育システムなどをあげていた。

以上の結果をふまえ今後学生部で行う就職支援体制へのいくつかの課題が明らかになったので報告する。

キーワーズ

就職支援体制，学生部，評価，看護学生

Ⅰ．はじめに

本学では，**表1**にあげた理念のもとに**表2**に示した卒業生の特性をめざして教育を行っている。このような特性をそれぞれの学生が身につけ，卒業後に各自が個々の能力を生かす分野や場については，学生自身が主体的に自らの判断で決定しなければならないことはいうまでもない。しかしながら，自分自身の将来の見通しを明確に見すえて，就職に関して自らの決定を下す過程はそう容易にはいかないという現状を学生との関わりの中でしばしば垣間見る。

激変する社会情勢の中で経済危機が切実な問題となってきたことは周知のことであるが，ことに女性の就職の底冷えという状態は極めて憂慮すべき問題である[1)]。こうした状況は医療・ケアの現場でもいえることである。医療費の高騰はさまざまな医療施設において人員削減という事態を招いているし，その中で1990年前後のいわゆる「看護婦不足」「看護婦確保難」の時期後迎えた病院就業者数の伸びも鈍化し，1996年以降看護婦就業者の年間増加数も下降傾向にある[2)]。同時に，高齢社会の到来は，社会における健康のニーズを多様により複雑なものにし，それに対応すべく保健・医療・福祉・看護のシステムは近年変革を遂げてきている。その変化の動向や状況を適切に把握することも，就職に際しては重要な課題となってくる。

このような現実を踏まえつつ，学生が自分を活かせる分野や場を見極めて決断し，そのための行動を起こしていくためには，個人の努力はいうまでもなく，その努力を支える大学としての支援体制の整備・充実が不可欠となるだろう。

これまで学生部では，学生部の重要な役割・機能の一つとして就職支援体制の整備とその充実に向けての活動を行ってきた。その詳細については，本学年報に

1）聖路加看護大学教授（成人看護学）
2）聖路加看護大学教授（地域看護学）
3）聖路加看護大学講師（母性看護・助産学）
4）聖路加看護大学助手（基礎看護学）

表1 聖路加看護大学の理念

聖路加看護大学はキリスト教精神に基づき，看護を志す人々が，より豊かな知性と感性をともに追求し，看護専門職者として成長することを目的としている。

本学の教育は，学生が，各個人に賦与された資質を心身両面にわたって調和よく発展させ，知的能力と判断力を高めるとともに，道徳的・倫理的価値観を形成するよう支援する。自他を問わず人間を愛し，相互に理解し合い，人権・信条を問わず人間社会の種々の領域に積極的に参加し，看護を通して公共の福祉を推進する人材となるよう支援する。

また本学は，社会の要請に応えて，教育と研究を通して看護学の発展のために努力を続け，その成果を看護教育と看護実践に役立てることによって，広く社会に寄与することをめざしている。

本学では看護を，人間の健康に焦点を当て，生活の全面に働きかけ，各人の達成しうる身体的側面と心理・社会・霊的側面の最高位，すなわち最適健康状態を生み出すように援助する働きととらえる。看護専門職者が看護を必要とする人々との援助関係を基盤に，看護学の知識と技を用いて，個人・家族・地域社会が，それぞれの可能性を最大限に発揮できるように援助することを願っている。

表2 看護学部卒業生の特性

本学では，学部の学生に対し，卒業時に以下の能力・態度を身につけていることを期待している。

1．人間愛の精神に基づき，あらゆる文化背景の人々を理解し，共感をもって接することのできる態度を持つ。
2．自己をみつめ，生涯にわたって自己の人間形成をはかりつつ，自律的に行動する態度を持つ。
3．事象への関心を深め，幅広く学問を探求し，批判的思考力を持つ。
4．看護を必要としている個人・家族・地域社会に対して，対象に応じて系統的に看護を実践できる基本的知識と技術および態度を持つ。
5．看護職の一員としてリーダーシップを発揮し，責務を遂行する能力を持つ。
6．日本および国際社会における看護の機能と役割を広い視野で多面的にとらえ，保健医療・福祉システムの中で責任を担う姿勢を持つ。
7．看護の専門職性および看護学の発展に寄与しようとする意欲を持つ。

継続して報告してきた[3)4)]。前述したように学生の就職状況は複雑性と困難性を増している。

本稿では，ここでこれまでに学生部が取り組んできた就職支援体制の現状を分析するとともに，支援体制に関する学生の活用状況と評価を行い，今後の就職支援体制充実のための課題を明らかにする。

Ⅱ．支援体制の現状

1．学生部の役割

学生部は，学生が充実した大学生活を送ることにより，豊かな人間性を育むことができるよう学生生活を支援することを役割としている[5)]。平成10年度は，学生部担当教員4名・健康管理担当1名の計5名で組織されていた。具体的支援活動は，「学生相談」「課外活動」「福利厚生」「就職関係」「奨学金」などに関することで，就職支援はこれらの役割の中の重要な位置を占めている。学生が自分の進路についての意思決定をスムーズにできることをめざして，学生に就職情報を提供し，ガイダンス・個別相談を計画的・組織的に行っている。

2．就職支援体制の実際

学生部での就職支援体制について，以下に具体的に述べる。

（1）支援設備

①求人に関する情報提供

学生は，2階学生部室および学生部専用掲示板より求人情報を得ることができる。学生部室には，各施設（地方自治体）から郵送されてきた求人募集要項・各種リクルート雑誌などが置かれており，いつでも自由に利用できる。掲示板には，応募期限の迫った求人情

写真１　求人用資料閲覧用棚

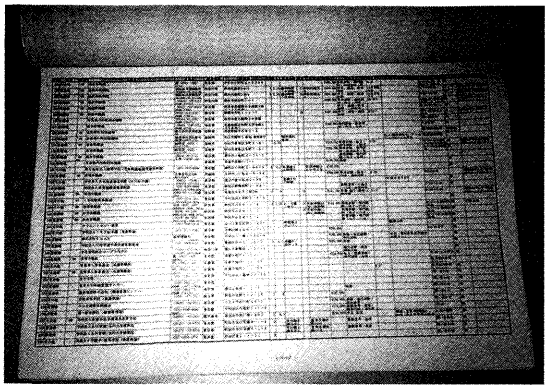

写真２　募集要項一覧表

写真３　就職活動調査結果ファイル

報など緊急性を要する掲示がなされる。

求人用の資料（募集要項，施設案内等）は，閲覧しやすいように専用の棚（**写真１**）に透明ファイルに入れ陳列している。

また，これらの募集要項の概要を一覧表（**写真２**）にしており，学生は希望する施設の「住所」「基本給」「福利厚生」等を一覧できるようになっている。一覧表の施設番号と棚のファイル番号は一致しており，一覧表から詳しい資料にも容易にあたることができる。例年，約480件の求人募集が送られてくる。

さらに，希望する就職先のより円滑な検索を可能にするため，コンピューターを用いた検索システムが平成11年度より可動予定である。

②過去の就職活動に関する情報の提供

卒業生より寄せられた就職活動に関する情報をまとめたファイル（**写真３**）を作成している。主な内容は，卒業生が資料請求を行った先の施設，受験した施設，就職試験の日程，試験・面接内容，後輩へのアドバイス等である。

（２）就職活動の支援

学生部では，学生が意思決定をスムーズに行えることに主眼を置き，支援活動を行っている。

具体的には，年３回行う「就職ガイダンス」と，年２回アンケート用紙を用いて行う「個別相談」がその主なものである。各々について，平成10年度４年生（60名）を対象に行ったものについて**表３・表４**に示した。ガイダンスに際しては，新しい社会情勢の中での就職動向をつかみ，昨年までの卒業生の受け入れ先からのフィードバックを十分に把握し，行うことを重要と考えている。平成10年度は，特に内定の取り扱いについて強調して行った。

３．就職指導活動の充実にむけて

就職指導をより充実させるため，学生部教員による各種研修会（**表５**）への参加も心がけている。

Ⅲ．就職支援体制に対する学生の評価

１．調査の目的と手順

就職に関する一連の支援体制を評価する目的で４年生60名を対象に質問紙による調査を行った。

調査の手順は，まず学生に本調査の目的について説明し調査への参加は任意であること，個人が特定できるような分析はしないことについて説明し協力を依頼した。回収は，留め置き法とした。**（アンケート調査ご協力のおねがい：参照）**

質問紙の内容は，①第１回から３回までのガイダンスおよび個別相談，②支援設備はどのように就職活動に貢献したかをたずねた。**（アンケート用紙参照）**

２．結果と考察

回収数は，39名（65％）であった。

１）ガイダンスおよび個別相談の評価（**表６**）

３回のガイダンスが就職活動に役に立ったかについ

表3　就職ガイダンス

開催日		主な目的	具体的内容	参加人数
第一回	4月	就職活動全体のオリエンテーション	就職する意味・活動の年間計画・情報集の方法・今後のガイダンス予定	40名
第二回	6月	「卒後の進路について先輩にお話を伺う会」（現場の生の声を聞く）	各臨床現場（看護婦・助産婦・保健婦・養護教員）で働いている卒業生から，就職活動，実際の業務について話していただく	37名
第三回	7月	就職活動全体のオリエンテーション	就職の場をどう選ぶか・手続き内定等の社会的な意味	38名

表4　個別相談（アンケート用紙によるもの）

時期	主な相談内容
第一回（4月）	各施設の特徴・採用試験を受ける施設の選択について
第二回（10月）	内定の断り方・誓約書の意味

※アンケートは紙面による個別相談の他に，学生の就職活動の動向を知ることも目的としている。また，学生の希望により個人面接も随時行っている。

表5　参加研修会一覧

日程	具体的内容	主な目的	主な参加者
1998. 4	第一回全国就職指導ガイダンス（文部省・就職問題懇談会・財団法人内外学生センター）	就職状況・倫理協定の遵守・企業の求める学生像について	大学就職担当教職員・企業人事担当
1998. 7	学生生活指導部課長相当者研修会（日本私立大学協会）	インターンシップ（就業体験）・学生の地域社会の要請に対応した社会的貢献活動・学生生活指導の課題について	大学就職担当教職員
1998.10	第二回全国就職指導ガイダンス（文部省・就職問題懇談会・財団法人内外学生センター）	就職状況・倫理協定の遵守・インターンシップ推進について	大学就職担当教職員・企業人事担当
1999. 3	就職問題に関する研究協議会（日本私立大学協会：就職委員会）	就職戦線への取り組みについて	大学就職担当教職員

ては「非常に役立った」から「あまり役にたたなかった」まで4段階のリッカートスケールにおいてたずねた。その結果，「非常に役に立った」から「役に立った」と答えた学生はガイダンスに参加した人のいずれも80%を越えていた。特に，先輩の話をきく会は「非常に役立った」と答えた人が17人53.1%も占めていた。自由記載では，「もっと具体的なガイダンスがあってもよい」というガイダンスの内容に対する要望や，「先輩の話はとても役に立った」「先輩の話はもっと早い時期に聞けたらよかった」などの意見がみられた。

一方個別相談（アンケート・面接）では，まず，それを利用した人がアンケートで17人，個人面接で9人と少なかった。アンケートについては，役に立ったとする学生が17人中50%（9人）を占めるにすぎなかっ

表6　ガイダンスの就職活動における評価

	非常に役立った	役立った	役立たなかった	あまり役立たなかった	参加・利用せず	合計
第1回ガイダンス	9	21	6	2	1	39
第2回ガイダンス	17	12	3	0	7	39
第3回ガイダンス	12	21	3	0	3	39
個別相談：アンケート	1	8	6	2	19	36
個別相談：面接	5	2	2	0	24	33

表7　ガイダンスはどのように役立ったか（複数回答可）

	1位	2位	3位
第1回ガイダンス	就職活動の目的・必要性の理解 27人	就職活動の年間計画の立案 13人	就職に関する情報収集 27人
第2回ガイダンス	就職先（施設）の決定 25人	就職に関する情報収集 19人	職種の決定 15人
第3回ガイダンス	決定（内定）に対する対応 17人	就職活動の目的・必要性の理解 14人	就職に関する情報収集 12人
個別相談	決定（内定）に対する対応 7人	職種の決定 就職先（施設）の決定 就職に関する情報収集 } 4人	就職試験対策（筆記） 3人

た。しかし相談においては，面接をした学生が9人と少ないながら5人（55.6%）は非常に役に立ったと答えていた。個人相談については，自由記載においても「個別に相談にいくと丁寧に受けて下さりありがたかった」と評価されていた。

以上の結果から，就職に関するガイダンスはおおむね学生の就職活動に役立っていると評価された。特に，先輩の話をきく会は学生に高い評価を得ていた。個別相談についてはそのニーズを把握するためのアンケートによる書面上の相談よりも，個人的に面接を希望し相談をした学生には高い評価を得ていた。

次に各々のガイダンスや個別相談は具体的にどのような就職活動に役立ったのかについて，8項目からなる質問を行った（**表7**）。

第1回ガイダンスは多くの学生がこれから就職活動を考え始める4月に実施した。このガイダンスについては，「就職活動の目的･必要性を理解する上で役立った」と答えた学生が27人ともっとも多く，この項目については，他のガイダンスや個別相談と比べてももっとも多かった。ついで「就職活動の年間計画を立てるのに役だった」（13人）「就職に関する情報収集に役立った」（11人）と続き，この内容はいずれも4月に行った第1回ガイダンスで伝えている内容と一致しており，学生より妥当な評価を得られていた。

第2回ガイダンスでは「就職先（施設）を決めるのに役立った」と答えた学生が25人ともっとも多く，他のガイダンスや個別相談に比べてももっとも多かった。さらに「就職に関する情報収集に役立った」（19人）「職種を決める上で役立った」（15人）と就職先や職種といったまさに進路を決定する上で重要なことに役立てていた。

第3回ガイダンスは，就職試験の始まる前にという学生の希望もあり7月に実施した。このガイダンスについては，「結果の取り扱い（内定の取り扱い方）について役立った」が17人ともっとも多く，「就職活動の目的･必要性を理解する上で役立った」(14人)，「就職における具体的な手続きを知る上で役立った」（13人）と実際の就職試験への手続きや結果への対応に役立てており，ガイダンスの内容は妥当な評価を得ていた。

個別相談については，結果に対する対応（内定の取り扱い等）が7人と多かった。

以上の結果から，各ガイダンスがねらいとして行った内容とその時期については，学生から妥当な評価が得られていたといえよう。

2）支援設備についての評価

学生部が支援している支援設備について，その活用の有無を尋ねた。まず学生部が就職支援活動を行っていることを知っていたかについて尋ねたところ，39人中38人の学生が知っている，と答えていた。

その他，学生部で提供している求人票やファイルは

34人（87%）の人が利用していた。また卒業生から情報を収集して作成している過去問題は29人（77%）の学生が活用していた。また，アップツーデイトな情報を提供している掲示板は27人（71%）の学生が活用していた。さらに，外部の情報誌（リクルートなど）は，34人（89%）の学生が活用していた。

学生部は，学生にとって就職に関する支援活動を行っていることは認知されていた。また，多くの学生は，本学独自の求人票や過去問題と一般的な求人情報誌（リクルート）の両方をバランスよく活用していた。

3）進路（職種・施設）を決める上での決め手となったこと

進路を決める上で決め手となったことについて自由記述で尋ねた。20人の学生が記述していた。

その施設の看護に対する姿勢，教育方針や理念，教育システム（3人），福利厚生，給与，勤務条件，環境，待遇（給与，休日等），設備，所在地（6人）職種（1人）と，労働条件・環境に関する内容について看護の方針・教育システムよりも多くの決め手としてあげていた。

また，「自分がしたいこと」「自分の興味」「自分が何を重視しているか考え直したこと」と自分は何がしたいのかについて5人の学生が記述していた。

さらに実際に自分で，その施設の人事の人や看護婦さんと話をしたり見学会や先輩の話を聞いたこと，実習で実際に働く看護婦さんの姿を見ていたことについて，7人の学生が記述していた。

最後に，教員から話を聞いたこと，両親との話し合い，先輩と話したこと，のように決定のプロセスで必要となる相談相手について5人の学生が記述していた。

Ⅳ．今後の課題

1．就職ガイダンスの内容の検討

3回にわたって実施した就職ガイダンスに関しては，「非常に役立った」と「役に立った」とほぼ8割の学生が答えており，学生の就職活動において有用であったと判断される。また，ガイダンスの内容は，各回で目的を定めて実施したことから，学生たちはその目的をおおむね達成しており，ガイダンスの内容は妥当であったと考えられる。

特に第2回目のガイダンスで実施した先輩の話を聞く会については，非常に役に立ったと答えた学生は，参加者の53.1%を占め，学生自らが主体的に進路を決める上で，先輩の話を参考にしてきることがわかる。先輩からの話は，求人票や求人情報紙などから得られる就職情報とは異なり，現場の生の声をよいことのみでなく，困難なことも含めて聞くことができること，将来のモデルとして先輩をみることができることなどから，学生にとって役に立つ情報であると考えられる。

また第3回のガイダンスの内容は，内定の社会的意味について強調した結果，実際の就職試験への手続きや対応に役立ったという評価が出ており，学生が就職の社会的契約についての意味を理解する上で有効であったことが示唆された。

一方で「もっと具体的なガイダンスがあってもよい」「先輩の話はもっと早い時期に聞けたらよかった」などの意見もあり，ガイダンスの時期・内容について検討の必要性が示唆されている。

例年ガイダンスの日程は，学生へのアンケート結果から決定されているが，昨今の看護界における就職活動の厳しさを考えると，学生の希望を尊重しつつ前年度までの就職状況を踏まえた就職支援活動の構想のもと学生部が主体となったガイダンススケジュールの決定が必要だと考える。そのためには，各種研修会への参加を継続するとともに，今回のような就職支援活動の評価を定期的に行い内容の充実を図っていくことが重要であろう。

また，就職支援活動の評価は，学生の就職活動の結果に対しても行われるべきだと考えられる。その指標としては，第一希望の施設への就職率・学生の満足度などが挙げられるが，今後はこのような観点からの評価についての検討も必要と考える。

2．個別指導のあり方

学生への個別指導は26人の利用者があったが全員ではなかった。このことは，個別指導の機会が全員に行われるようなシステムが整えられていないことを表している。その一方で，個別指導を受けた学生の満足度は非常に高く，学生の進路決定に際しては，情報の提供のみならず対話型の相談の重要性がうかがえた。相談に対する教員の対応について学生は「丁寧に受けてくれた」と満足感を述べていた。この言葉が示すように，学生が教員と対話する中で自らの思いや迷いを口にし，そのことに丁寧に耳を傾けてもらうことができ，自分の思いや選択が尊重されたという経験をしたのではないだろうか。直接の面談ではないが，就職ガイダンスに際して行った対話式のアンケートにおいても，同様の効果があったと考えられる。すなわち学生はかかえている疑問や迷いについてアンケートに自由記載し，それに対してあまり時期をあけずに教員からアドバイスを記載してやりとりする方法は，多忙な学生と教員のつながりを明示すると同時に，学生の意思決定を支えることにもつながるものと考える。学生の利用

アンケート調査ご協力のお願い

学生部では，皆さんの就職活動がより円滑に進むよう，支援活動を行っております。
昨今の厳しい就職の現状において，より充実した就職に関する支援活動に取り組む必要性を感じております。

そこで，皆様より学生部で実施している就職に関する支援活動の評価をいただき，その声を今後の活動に役立てていきたいと思っております。
お忙しいこととは存じますが，ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお，調査への参加はみなさんの自由意思で決めていただいて結構です。
また，本調査の結果はこの研究の目的以外には使用いたしませんし，個人が特定されるような分析は行いません。
ご協力いただけます場合は，必要事項を記入のうえ，卒業式までに（3月10日）教務課の回収箱まで御投函をお願いいたします。

1999年3月

聖路加看護大学　学生部

以下の質問において適当と思われるところに○をつけてください。　1999.3/9

1）以下の支援内容は就職活動にどのように役立ちましたか。

非常に役立った　　あまり役立たなかった　利用・参加せず

①4月のガイダンス　　（　　）
内容：就職することの意味，活動の年間計画
ガイダンスの予定

②6月の先輩の話　　（　　）
内容：卒業生を迎えての話し合い

③7月のガイダンス　　（　　）
内容：就職の場をどう選ぶべきか，手続き
内定等の社会的な意味

④個別相談
アンケートでの相談　　（　　）
個人面接　　（　　）

2）具体的にどのように役立ちましたか。（複数回答可）

職種を決める上で役立った	（　）	（　）	（　）	（　）
就職先（施設）を決める上で役立った	（　）	（　）	（　）	（　）
就職活動の目的・必要性を理解する上で役立った	（　）	（　）	（　）	（　）
就職に関する情報就集に役立った	（　）	（　）	（　）	（　）
就職活動の年間計画を立てる上役立ったで—	（　）	（　）	（　）	（　）
就職活動における具体的な手続きを知る上で役立った（例：電話のかけ方，話し方）	（　）	（　）	（　）	（　）
就職試験対策に役立った				
・筆記試験	（　）	（　）	（　）	（　）
・面接試験	（　）	（　）	（　）	（　）
結果に対する対応について役立った（内定の取り扱い等）	（　）	（　）	（　）	（　）
その他（　　）	（　）	（　）	（　）	（　）

3）支援設備について

①学生部が就職の支援活動を行っていることを知っていましたか　はい　いいえ
②学生部の部屋の求人票やファイルなどを利用したことがありますか　はい　いいえ
③過去の問題傾向フィイルを活用しましたか　はい　いいえ
④学生部の就職関連の掲示を利用しましたか　はい　いいえ
⑤外部の情報誌（リクルートなど）を活用しましたか　はい　いいえ

★学生部で行っている就職支援のあり方について，ご自由にご記入ください。

☆進路（職種・施設）を決める上で決め手となったことは何ですか？

ご協力ありがとうございました。

しやすさに着目した場合，E-mailを用いた個別相談などに検討の余地があるのではないだろうか。

現状では，学生部の教員を中心として全教員が進路指導にあたっている。特に学生部の教員は，就職に関する研修会や，進路指導についての研修会に参加しているが，今後は就職カウンセリングともいうべき，個別的な相談技法を習得した者が進路指導にあたることや個別指導システムについて考える必要があろう。

3．これからの就職支援のあり方

学生の主体的な意思決定を重視した有用な支援を送るためには，これまで述べてきたように，ガイダンスのあり方や個別指導システムの構築について検討するとともに，就職支援にあたる教員・職員の資質を向上させていく努力が必要性となるだろう。本学では，新たな試みとして平成9年度より学士編入制度を取り入れた。それに伴い彼らの背景やニーズを考慮した就職支援体制を整えていく準備も必要である。

参考文献

1）平成9年度　東京の女性労働事情ー企業と女子学生の就労についての意識や行動のギャップに関する調査，東京都労働経済局，平成10年3月.
2）岡村元子：看護職をめぐる労働市場はどうなる，病院,58,318-322,1999.
3）1997年度（平成9年度）聖路加看護大学年報,1998年6月.
4）1998年度（平成10年度）聖路加看護大学年報,1998年7月.
5）前掲書4）p56.

Abstract

Evaluation of the employment support system

Hiroko komatsu[1], Hiromi kawagoe[1], Naoko arimori[1], Yumi sakyo[1]

The Student Support Department has been engaged in establishing andimproving the employment support system as one of the important roles and functions the department is expected to play and execute. This time, research was conducted to identify the potential challenges and improve the employment support system for the future by analyzing the current employment support system that was established and improved by the Student Support Department. The research also focused on determining the degree of utilization and evaluation of the support system by the students.

Based on the results, it is suggested that:

1. guidance programs/individual counseling organized by the Student Support Department are generally assessed as useful job hunting activities,
2. students utilize employment support tools such as data prepared for their use and journals providing general information on recruitment, and
3. students determine their course of life after graduation and after considering working conditions such as treatment or location of the working site, nursing principles or on-the-job training programs.

Some challenges for the future employment support system revealed by the research are discussed in this article.

Key words

the student support department, the employment support system, nursing student, evaluation

1) St. Luke's College of Nursing